

1 基本情報							
施設名又はグループ名		指定管理者名及び団体概要					
都市部の公園・東部グループ		(指定管理者名) アメニス東部地区グループ (団体の概要)					
指定期間		代表団体：株式会社日比谷アメニス 構成団体：日建総業株式会社					
H28.4.1 ～ R05.3.31 (7年間)							
2 施設名		3 収支 (単位：千円)					
		項目	金額	公園別支出額			
猿江恩賜公園	中川公園	収入 計	669,561	猿江恩賜公園	113,160,557	中川公園	66,691,352
亀戸中央公園	大島小松川公園	内 指定管理料	669,561	亀戸中央公園	82,469,345	大島小松川公園	185,881,679
尾久の原公園	宇喜田公園	訳 利用料金	0	尾久の原公園	47,326,132	宇喜田公園	28,022,779
東綾瀬公園		支出 計	669,561	東綾瀬公園	146,009,256	合計	669,561,100
		収支差	0				
4 管理運営の概要							
<p>基本方針に挙げた「TOKYO PARK TRIP」の実現のため、「公園を訪れる皆がわくわくするような公園作り」を積極的に行った。しかし一昨年度から続く「新型コロナウイルスCOVID-19」の感染拡大の危機は、年度当初影響を受けた。注意喚起の期間が長期に渡り、公園の管理運営に大きく影響があった。さらに夏から年明けまで急速に広まったオミクロン株については、職員の近辺でも家庭内感染などにより、7・8月に8名、12・1月に8名の感染者、濃厚接触者が出てしまった。不足した部分は他公園のサポートで補った。</p> <p>各公園に設置したウェルカム花壇などにおいて、ボランティアとともに花やハーブによる修景を実施した。猿江恩賜公園のチューリップの杜、東綾瀬公園と宇喜田公園のハーブ花壇、大島小松川公園の大花壇のネモフィラや菜の花、コキアはその時期になると問い合わせのメールや電話が来るほど関心を集めた。植物管理においては、住宅と隣接した公園が多いため隣接部の大径木管理を計画的に実施、樹高調整や整枝剪定を順次進めている。草刈り作業は年5回以上実施、低木刈込管理は定期的に行われ、常にきれいな状況を整えて、安全安心な公園となるように心がけた。利用者アンケートなどでも植物管理や花の管理に対する評価が高く、利用者満足度をあげた一因である。また、各公園管理所の職員が管理所周囲を季節に合わせた飾りつけやクラフト制作を行うことによって管理所に気軽に立ち寄る環境を整えた。</p> <p>個々の公園では、猿江恩賜公園は生物多様性に取り組み近隣団体と連携、亀戸中央公園はサザンカの復旧と育成への取り組み、尾久の原公園は公園を中心とした地域ネットワークの構築、東綾瀬公園は安全安心な樹木管理、中川公園は公園産の素材を活用したイベントの強化、大島小松川公園はパークミーティングと防災プログラムの実施、宇喜田公園はハーブガーデンと初めての防災フェアに注力した。</p>							
5 管理状況 (維持管理)							
<p>維持管理全般への対応として、感染拡大防止策をしっかりと確認、実施しつつ、熱中症対応としてマスクを外して良いルールを話し合うなど、体調面に気をつけながら作業を行った。また安全管理に重点を置き、各々の作業において危険予知活動を行い、安全パトロールを毎月2公園ずつ、3カ月に1回は実施するよう取り組み、事故や災害情報をメールや掲示板機能で共有した。重大災害はなく、夏場に熱中症1件、蜂刺され5件にとどめることができた。引き続き無事故を維持するよう努める。</p> <p>東京都が取り組んでいる「再生エネルギーの利用を推進する」ため、電力供給先を変更し、「都立公園初の再生可能エネルギー100%の電力による公園管理運営」を継続した。電力料金の高騰に予算が圧迫されているが、電力削減に職員が努めている。</p> <p>樹木管理では、増額予算の大径木管理を重点的に実施し、特に東綾瀬公園では利用者要望に対応して、大規模な剪定作業を行った。昨年度から対応しているカシノナガキクイムシやクビアカツヤカミキリに対しては、定期的に巡回点検して、新たな発生を最小限に食い止めるとともに、適切に対応を行っている。クビアカツヤカミキリについては発生は見られなかった。また継続的に全公園で園路際・樹林地・広場などエリア毎の機能剪定を実施し、季節ごとの花や紅葉を通じて公園の魅力を楽しんでいただいた。3Dスキャナを活用した樹木台帳の作成にも大島小松川公園で着手した。ハーブや花を活用した新たな公園の魅力作りを都民協働の下で推し進め、宇喜田公園のハーブガーデンの活動、大島小松川公園自由の広場大花壇での活動、東綾瀬公園でのハーブガーデンでの活動が充実し、公園ならではの魅力を創出した。</p> <p>施設・設備管理では、平成23年度から7年間蓄積した設備機械台帳のデータを元に計画的に修繕を行い、更なる施設の予防保全、長寿命化に向けた改善を推進した。増額予算の計画的な実施や緊急対応経費による不具合の修繕作業などを実施した。利用者からの施設や設備の要望にも適切に対応し、猿江恩賜公園と東綾瀬公園での園路段差改修、中川公園のフェールボール防止ネットの設置、東綾瀬公園のトイレの修繕要望などに対応した。</p> <p>大島小松川公園の六価クロムと尾久の原公園のダイオキシンについては、細やかなリスク対応を毎日行っている。結果利用者からのクレームは1件もなく、適切なリスク管理ができています。</p>							
6 利用者アンケート結果							
実施方法：							
施設名	回答数	総合満足度	植栽管理	施設の清潔さ	安全・安心	職員の対応	施設ごとの分析・評価
猿江恩賜公園	113	4.6	4.4	3.8	4.3	4.4	総合で0.2Pダウン、R2年度と同様となった。減少した項目は南園などの工事の影響があると推測。
亀戸中央公園	120	4.4	4.5	3.9	4.3	4.4	総合で0.1Pダウン、職員接遇は0.2Pアップ。施設の清潔さは老朽化のため低いと考えられる。
尾久の原公園	157	4.7	4.7	4.2	4.6	4.6	全体的に0.2Pアップ。管理所と利用者の距離感が近い。自然観察やマルシェのイベントに対する関心度が高い。
東綾瀬公園	137	4.8	4.6	4.3	4.5	4.4	全体的に満足度が向上。総合満足度と植栽管理は高い水準。管理所展示やイベントの認知度、評価が上がっている。
中川公園	120	4.6	4.7	4.4	4.6	4.7	総合満足度は高評価。「自然など緑の豊かさ」「静かさ・落ち着き感」「樹木や植物の管理」が高評価。
大島小松川公園	106	4.8	4.7	3.9	4.5	4.7	総合で0.1Pアップ。施設の清潔さがダウン。職員の接遇や花壇管理や植物管理が高評価であった。
宇喜田公園	154	4.7	4.5	3.8	4.3	4.3	全体的に評価アップ。ハーブガーデンの評判が良く、散歩や子供の遊びと近隣利用が多い。
グループ平均	130	4.7	4.6	4.0	4.4	4.5	
グループ全体の分析・評価							
<p>毎年秋にアンケート調査を行っており、100ロットを目標にアンケートを実施している。総合で4.7Pと高く、植物管理、職員対応の評価が高くなっている。緑に癒しを求めにくる方が多いのか、花壇管理や樹木管理の評価が高い。また管理所職員が積極的に利用者とのコミュニケーションを取っており、職員接遇に高い評価を得ている。全体で施設の清潔さのポイントが比較的低くなっているが、老朽化が見られる施設が多くあるため、計画的に修繕等を進めていく。</p>							
7 利用者数の状況 (単位：人)							
施設名	当該年度	前年度	差	分析・評価			
猿江恩賜公園	1,479,090	1,525,358	△46,268	コロナ禍も終息により全体的に公園利用が減。連休の天候不順などが影響している。			
亀戸中央公園	1,663,128	1,754,819	△91,691	コロナ禍も終息により全体的に公園利用が減。連休の天候不順などが影響している。			
尾久の原公園	901,285	916,565	△15,280	コロナ禍も終息により全体的に公園利用が減。連休の天候不順などが影響している。			
東綾瀬公園	2,454,405	2,330,349	124,056	コロナ禍も終息により全体的に公園利用が増。通勤者の利用増で増えたと推測する。			
中川公園	879,543	1,010,128	△130,585	コロナ禍も終息により全体的に公園利用が減。連休の天候不順などが影響している。			
大島小松川公園	1,323,776	1,439,690	△115,914	コロナ禍も終息により全体的に公園利用が減。連休の天候不順などが影響している。団体利用は回復傾向。			
宇喜田公園	671,037	679,912	△8,875	コロナ禍も終息により全体的に公園利用が減。連休の天候不順などが影響している。			
合計	9,372,264	9,656,821	△284,557	コロナ禍も終息により全体的に公園利用が減。連休の天候不順などが影響している。団体利用は回復傾向。			

# 猿江恩賜公園

## ～歴史とみどりが息づく公園～

### 猿江恩賜公園の**特徴**

- ・**歴史や文化を継承する公園**  
明治政府の貯木場であったが、昭和7年に公園として開園した。園内のミニ木蔵は当時の猿江貯木場の面影を残す。
- ・**都会に貴重な自然を残す公園**  
多様な生物の生育環境に配慮した環境整備を行うとともに、公園独自の自然環境を利用した取り組みを行っている。

### 猿江恩賜公園の**課題**

- ・**地域とのつながりの拡大**  
ウィズコロナの状況下で地域との連携をいかにして発展、持続可能なものとするかについて実践を始めた。
- ・**植栽や施設の計画的な管理**  
施設改修や植栽に関する要望を踏まえ、計画的に施設改修・植栽管理を進める。

### 猿江恩賜公園の**目標**

『猿江恩賜公園マネジメントプラン』に基づく

- ・**スポーツによる健康づくり**  
東京オリンピック・パラリンピック後のスポーツ活動の機運を盛り上げ、都民の健康づくりに貢献する。
- ・**防災機能の強化**  
災害時は避難場所としての利用が予想される。災害発生を想定した取り組みや、防災関連設備の充実化を図る。

『猿江恩賜公園マネジメントプラン』に基づく

## 令和4年度の猿江恩賜公園管理運営方針

- ① 地域とのつながりと発展性
- ② 公園における緑とその価値創造について
- ③ 利用者の安全性利便性の向上

3 すべての人に健康と福祉を



4 質の高い教育をみんなに



17 パートナシップで目標を達成しよう



### 地域とのつながりと発展性

取り組み  
その一

近隣自治会を始め地元自治体、近隣学校、地元ボランティア、企業との連携を深める

### ボランティア活動の活性化

ボランティア団体の「和ぎの会」が公園主催イベントの補助及び自主イベントの開催を通じて、普及活動を行い、来園者との交流を深めている。「花の会」も同様に花壇手入れを通じて自然保護と来園者の交流を深めている。



こいのぼり制作



ドングリクラフト制作



生き物観察



花壇手入れ



### 毛利小学校との関係を維持

隣接する毛利小学校と連携し、学校農園を運営した。年間を通じた植付と収穫、コミュニティアテンダントによる課外授業を通じて、児童が自然と触れ合い、理解を深める機会を提供した。



田植え体験



芋掘り体験

### コロナ禍における新たな健康増進

屋外で行うスポーツプログラム「アウトドアフィットネス」では、筋膜リリース、ルディクウォーキング、ランニング教室、かけっこ教室等を実施した。コロナ禍において体を動かす良い機会になったと好評をいただき、健康増進を図ることができた。



アウトドアフィット  
かけっこ教室

自然とのふれあい。  
みどりの価値についての千葉大学との共同研究、生物多様性保全管理計画

## 自然とのふれあいと心の癒し

桜や来園者とともに植え付けたチューリップなどの四季の自然が来園者の心を和ませた。また猿江に住む魚類の紹介をサービスセンターで継続的に展示し、皆さんへ自然をより身近に感じていただく機会を提供できた。



チューリップの杜



中央広場の桜



猿江に住む魚類の展示

## 千葉大学との共同研究「みどりの価値について」

公園へのニーズがみどりの量や質から、居心地の良さへと変化しており、その価値を最大限発揮できるように新しい緑の価値創造を目標に令和3年4月より千葉大学と共同研究を開始した。

令和4年度は2つの芝生広場における利用者の滞留空間に関する研究や年間調査結果が発表された。これらの研究から得た知見を管理運営に活用するとともに、引き続き公園利用者の行動特性や利用実態を把握・分析できる調査方法の確立を目指していく。



360度カメラを活用した調査



GPSロガー付けたイス・レジャーシートの貸出

## 生物多様性保全管理計画

令和4年度は東京都が生物多様性保全管理計画に伴って生物多様性保全整備工事を実施した。10月にはかいぼりの魚とりが行われ、生物調査会社、都立科学技術高等学校とともに公園スタッフも複数名参加した。1月にはティアラ江東小講堂で工事の中間報告が行われ、設計者や施工管理担当者が関係者に向けて事業の趣旨を説明した。また、当園を調査のフィールドとする東京都科学技術高等学校が調査結果を発表した。公園管理者としては上記内容に積極的に関わり関係構築を行った。



生物調査会社によるかいぼりで捕獲した生物の解説



生物多様性保全工事 中間報告

## 利用者の安全性利便性の向上

利用者の安全性利便性向上を目指した施設の修繕及び植栽管理を行った。

### 安全目線の植栽管理

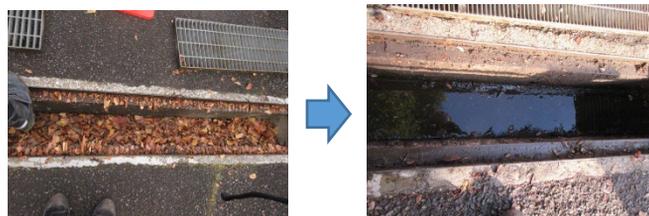
台風対策、落葉対策等危険枝の剪定を継続的に実施し、「利用者の安全確保」を第一とした植栽管理を行った。



要望含めた対策剪定

### 安心安全に来園者が利用できるために

インフラの老朽化に伴い、排水が詰まりやすい傾向にあるため、定期的に排水樹を点検し・清掃して対応。



雨天後の排水樹清掃

# 亀戸中央公園

～歴史とみどりが息づく公園～

## 亀戸中央公園の**特徴**

- ・歴史や文化があふれる立地  
亀戸天神社や亀戸水神宮などの歴史あるスポットや東京スカイツリーなどの観光地が点在する魅力ある地域に位置する。
- ・自然を学ぶイベントの充実  
自然体験プログラムやサザンカガイドツアー、各種イベントが非常に充実しており、公園のテーマである「都会でみどりが学べる公園」を実現している。

## 亀戸中央公園の**課題**

- ・利用者に配慮した公園づくり  
公園の老朽化に伴う施設の問題を早期に発見・対処し、来園者が安心して安らげる公園づくりが必要である。
- ・サザンカの名所の復元  
サザンカの名所の公園として知られているが、現存する品種の種類はあまり多くないので、今後品種を増やし、名所としての実態を回復する必要がある。

## 亀戸中央公園の**目標**

『亀戸中央公園マネジメントプラン』に基づく

- ・公園独自の魅力づくり  
公園独自の魅力を積極的に発信し、自然観察、様々な世代の交流など、楽しさあふれる公園づくりを目指す。
- ・水と緑の骨格軸の拠点となる公園、街路樹の形成  
幹線道路や河川との緑のつながりに配慮した整備を進め、都民がうるおいとやすらぎを実感できる緑の拠点を創出する。

## 令和4年度の亀戸中央公園管理運営方針

- ㊟ 遊びキャラバン
- ㊞ 安心して遊べる公園づくり
- ㊟ サザンカの名所の復元

## 遊びキャラバンとしてイベント開催

取り組み  
その一

家族で楽しめるイベントの提供



### 遊びキャラバンや自然観察会のサービスを展開 密にならないように事前予約で受付開始

遊びキャラバンのクラフトで季節感を味わっていただいた。  
三密を避けて家族間のグループに分かれて、人数制限を設け会場に入っていたき行った。園内にある自然な素材を材料に(どんぐりや剪定枝を細かくした木材)を使ったどんぐり工作、竹を使った昭和の水鉄砲作りを行った。



竹の水鉄砲作り



### 自然観察会

密にならないように毎回定員10名で実施した。参加する観察会を通じて自然を学びサザンカの魅力を感じていただいた。



# 安心して遊べる公園づくりとバグズガーデン

取り組み  
その二

日次の巡回や月次・年次の遊具点検などで危険個所を敏感に把握し、必要な措置を迅速に行った。

## 安心して遊べる公園づくり

安心、安全に楽しく  
過ごせる公園にす  
べく、低木のサツキ  
を植え付けて迷路  
を作りオープンした。  
親御さんにも安心し  
て遊べる公園づくり  
を行った。



サツキ迷路

## バグズガーデン

安心して昆虫採集して遊べる  
場所として園内の一部に刈残  
しを設け、バグズガーデンを  
作った、子供達の虫探しの場  
になり虫を追いかけて賑わっ  
ていた。



バグズガーデン(昆虫の庭)

取り組み  
その三

## サザンカの名所の復元

サザンカ植栽地復元に向けて、日本ツバキ協会より無償提供さ  
れた挿し穂を育成して植え付ける。



## 無償提供を受けた差し穂を苗にし、サザンカロードに植え付け

【サザンカ名所復元計画の概要】…  
サザンカの名所として品種の充実と既存  
種の維持  
サザンカ植栽地復元に向けて日本ツバキ  
協会より無償で提供された挿し穂をサザ  
ンカロードに植付け、公開の準備に入った。



サザンカロードを開墾・植付を行なう

## 新種のサザンカ

挿し穂から育てた新  
種のサザンカ。  
現在66種で、最終的  
には288種類を目指し  
ていく。



一部の新種サザンカ



# 尾久の原公園

～水辺のいきものとふれあえる街中公園～

## 尾久の原公園の特徴

### 地域と連携したイベント展開

地域密着型の公園であり、近隣の店舗やボランティアが公園に参画する地盤がある。マルシェやワークショップなど他の公園とは趣向の異なるイベント展開をしている。

### 荒川区でも有数の自然

トンボ池など、荒川区でも有数の自然が残る公園であり、30種類以上のトンボや冬季は水鳥の貴重な生息場所となっている。

## 尾久の原公園の課題

### ダイオキシンによる土壌汚染

平成26年に、土壌にダイオキシンが残留しているリスクのある地域に指定され、平成28年3月に公園が全面開放された。

### 遊具等のハードが少ない公園

子供の遊べる遊具が原っぱに1箇所しかなく、他の公園と比較しても遊具等のハードが非常に少ない公園。イベントなどのソフト面で公園活性化を図る必要がある。

## 尾久の原公園の目標

『尾久の原公園マネジメントプラン』に基づく

### 東京一”綺麗”な公園！

尾久の原公園は、非常に綺麗な園路や芝生広場が広がっている。きめこまやかな施設管理により、これを継続して維持する。

### 自然とふれ合える公園づくり

トンボ池など、荒川区でも貴重な自然を活かし、公園の自然を積極的にPRするほか、環境教育プログラムの充実を図る。

## 令和4年度の尾久の原公園管理運営方針

① 公園でつながる地域ネットワークの構築

② 自然とのふれあいと発見の場

③ 安全の確保と景観の向上

取り組み  
その一

## 公園でつながる地域ネットワークの構築

地元住民や市民団体と作る新たな日常



## 新たな園内活動やイベントの誕生 ～尾久の原公園で何かをしたいミーティング～



## 3年ぶりの集客イベント

～ネットワークから生まれるイベント～



地元商店の出店による「森のマルシェ」を5月8日12日に開催。3月にはより広く参加者を募った「おぐのはらアートフェスタ」を開催。出店にとどまらず誰もが参加できるイベントへと発展した。

## 学校や施設との連携

～新たな交流と協働～



隣接する多世代交流施設グループホームと協働で花壇を管理。施設の屋上を利用して種から苗を育てている。

近隣中学校へ出向し腐葉土づくりを指導。お返しは園内清掃。交流から連携へと関係は発展していった。

集客イベントには消防署も3度の参加。防災プログラムを実施。センターには感謝状も贈られた。

# 自然とのふれあいと発見の場として

多様性の向上と新しい出会いの創出



## 生物多様性保全の維持管理 ～水辺の植生管理から生物生息環境の保全へ～



開放水面を維持し水生植物の群落と周辺の草丈を一定以上に保つ取り組みから、トンボの個体数は増加傾向に！



湿地には野鳥の生息環境保護のため、アシの刈り残し箇所を設置。

繁殖期には、パンやカモの営巣や子育てが見られる。



## ふれあいと発見の場の創出 ～出会いをきっかけの場へ～



### 【自然観察会】

毎月荒川区環境課と協働で行っている「自然観察会」には、親子の参加者たちが集まる。

### 【虫の王国】

初夏から秋にかけて、はらっぱの一部に設けた刈り残し「虫の王国」は貴重な昆虫とのふれあいの場として常に賑わっている。



### 【尾久の原バウンティハンター】

園内での目撃情報や捕獲情報の少ない生き物5種を賞金首に見立てての探索企画「尾久の原バウンティハンター」を約3ヶ月間にわたり実施。最終的な捕獲報告は3種25名。期間中は老若男女を問わず多数のハンターたちが園内で対象種を捜し歩いた。



### 【生き物探しスタンプラリー】

季節ごとの植物や生き物を探す「生き物探しスタンプラリー」は、学校など団体利用者に人気。

## 希少種の復活 ～昨年、7株にまで減少していたタコノアシが200株以上も！～

ダイオキシン汚染の発覚後、植生の画一化が進んでいた湿地や水辺の一角で、刈草の移動や植え込みの整備などの取り組みを行ったところ、希少種・タコノアシの群落が再現された。



20年以上にわたり観察を続けている尾久の原愛好会からも「かつての尾久の原の景色」「尾久の原の奇跡」といった声も聞かれた。次年度以降に向けた保全の取り組みはすでに始まっている。



# 安全の確保と景観の向上

安心できるきれいな公園



## 園内施設の修繕 ～ダイオキシンによるリスク管理もふまえて～



安全性を考慮して、過年度より老朽化したウッドデッキの改修を提案してきた。都との協議を進め、令和4年度は都による工事が実現した。



緊急対応経費を用いて、周辺環境も考慮し、遊具下の法面補修にはグリーンマット、水路の土留め工事には植生土嚢を採用。今後の緑化に期待が膨らむ。

# 東綾瀬公園

## ～緑の中でからだ動かす多世代交流公園～

### 東綾瀬公園の特徴

- **地域に密着した管理運営**  
約2kmの緑道に似た公園のため、住宅地に隣接しており、接する自治会の数が非常に多い。そのため地域と連携した活動が盛んであり重要である。
- **ファミリー層の利用客増加**  
従来年配の方の利用が多かったが、近年周辺に新規住宅の建設が進み、ファミリー層の利用者が増加している。また、公園のテーマでもある「多世代交流」が進んでいる。

### 東綾瀬公園の課題

- **樹木に対する苦情対応**  
東綾瀬公園は多くの住宅に面した公園であり、日当たり確保や強風での揺れや越境枝など樹木に関する苦情対応が課題であった。
- **パートナーシップの活性化**  
新たなパートナーシップとして、わんわんサポーターとの提携や花壇ボランティアを立ち上げた。その活動を軌道に乗せて公園を活性化することが課題であった。

### 東綾瀬公園の目標

『東綾瀬公園マネジメントプラン』に基づく

- **防災機能の強化**  
災害時は避難場所としての利用が予想される。災害発生を想定した取り組みや、防災関連設備の充実を図る。
- **スポーツによる健康づくり**  
2020年東京オリンピック・パラリンピックの開催に向け、スポーツ活動の機運を盛り上げ、都民の健康づくりを進める。

## 令和4年度 東綾瀬公園管理運営方針

① 住宅地の近隣公園としての樹木管理

② コロナ後の公園機能の復活

③ パートナーシップの拡充

### 住宅地の近隣公園としての樹木管理

取り組み  
その一

東綾瀬公園には高木が多く、隣接した住宅の日当たり確保、園路の安全通行のための越境枝除や落葉清掃など樹木対策を実施



#### 強風による高木の揺れや倒木防止と住宅の日当たり確保

作業後

強風による揺れの恐れがある高木や日当たり不良の場所に対する樹高調整を計画的に実施し、近隣住民の不安と不満を取り除くことができた。



作業前



作業後

通行障害の  
解消

日当たりと  
電線接触  
の解消



作業前



作業後

#### 越境枝の適切な対応と剪定

境界部の越境枝を調査して計画的に剪定することで通行の安全を確保した。

#### 落葉清掃による事故防止

落葉シーズンに優先して落葉清掃を行い、来園者が安心・安全に通行ができるように努めた。



区道に伸びる下がり枝

作業前



作業後



ハト広場の階段付近

清掃前



清掃後

## コロナ後の公園機能の復活

コロナ禍で開催を控えていたイベントを再開し、多くの参加者に公園の楽しさや公園の役割を理解を頂けた。



### 公園の楽しさを提供するオータムフェスタの開催

9種類の体験プログラムを開催し約500名の参加を頂いた。参加者からは「楽しかった。次はいつやるの?」「家ではなかなかやれないので、このような催しはありがたい。」等の多くの感謝と今後のイベントへの期待の言葉を頂いた。



### 公園の役割と設備を紹介する防災フェスタの開催

約400名の参加を頂き、公園内の防災設備の紹介と体験、更に足立消防署、綾瀬警察、足立区役所、わんわんサポーター綾瀬の協力による防災体験を通じて近隣住民に防災・防犯への意識向上が出来た。



### パートナーシップの拡充

イルミネーション展示やイベントを行い利用者とのコミュニケーション向上や継続的なボランティア協働の強化、東京武道館と連携したイベントの開催



### 公園利用者とのコミュニケーション向上

季節ごとの催事や花が絶えない花壇管理などにより近隣住民や園児が多く集まり、職員は積極的にコミュニケーションをとり、公園の取り組みについて利用者から理解を得られた



### 東京武道館連携イベント開催

東京7公園の紹介やボランティアが育てた植物配布、ネイチャーゲーム等実施し、東京武道館来場者に広く公園の魅力を伝えることができた



### ボランティアとの積極的活動



# 中川公園

## ～地域にとけこむふれあい公園～

### 中川公園の**特徴**

- ・**足立区のかくれ紅葉スポット**  
100品種を超えるカエデ類やイチョウ、サクラなどの樹種が秋には見事に色づく。知る人ぞ知る街中の紅葉スポット。
- ・**街中の静寂閑雅な空間**  
下水処理場の上に位置するA地区は夜間閉鎖される。環状7号線に面しているが静かで落ち着いた空間となっている。

### 中川公園の**課題**

- ・**サービスセンターの役割**  
有料施設が無く立地も悪いためサービスセンターの利用者が少ない。サービスセンターの利用を増やす必要がある。
- ・**公園の活性化**  
公園の広場を活用したイベントや隣接する水再生センターとの関係強化など、公園のポテンシャルを有効活用し、さらなる認知度を向上させることが課題。

### 中川公園の**目標**

『中川公園マネジメントプラン』に基づく

- ・**公園独自の魅力づくり**  
公園独自の魅力を積極的に発信し、自然観察、様々な世代の交流など、楽しさあふれる公園作りを目指す。
- ・**子供の健やかな成長の場作り**  
子供たちの野外体験の場を増やし、多世代交流や子供たちの体力向上を図るとともに、公園のテーマである来園者たちとの”ふれあい”を大切にされた公園管理を行う。

## 令和4年度の中川公園管理運営方針

- ① 公園独自の魅力づくり
- ② 公園管理者のおもてなし
- ③ 地域交流の活性化

## 自然の恵みを活かして公園を楽しむ

取り組み  
その一

植物の生育過程から収穫物の利用まで、来て見て作って楽しむ場所を提供！



### 公園で収穫し加工したつる首ヒョウタンを使用したクラフトイベント



育成中のつる首ヒョウタン

今回初めて公園で育てたつる首ヒョウタン、日々首が長くなっていく様子を来園者に見ていただいた。日々の適切な管理の結果、約100個のヒョウタンを収穫できた。また、収穫後は職員手ずから加工しヒョウタンマラカス作成のイベントまで実施することができた。ほかにない工作イベントとして参加者に大変喜ばれた。



加工中のヒョウタン



イベント実施状況



完成したマラカスヒョウタン

### どんぐりの魅力は実だけではありません！

クヌギ、マテバシイなど、どんぐりのなる木が多数ある公園において、樹木の観察会を実施、樹木の魅力を知っていただいた。また、独自のクラフトイベントも実施した。



どんぐり鬼



どんぐりのバレンタインギフト



観察会の状況

## 日々の清掃の強化



ゴミ清掃



鉄棒の除菌作業



トイレ清掃

園内のゴミや汚れを少しでも少なくするために日々の清掃を強化、毎日3度の園内巡回、トイレ、手摺、水飲み場など多数の方が利用する場所のこまめな清掃、コロナ対策としての遊具の除菌などを行った。

## 新たに花壇を設置



新たに設置した花壇



ポリタンクを使用しての水まき

今まで花壇のなかったB地区に来園者からの要望にも応える形で花壇を設置、近くに散水栓がないため日々職員がポリタンクを使用して水まきを行っている。来園者からの評判も大変良い。

## 公園と地域のつながり

地域組織や住民からの要望に応える形でイベント等を実施、地域と公園のつながりが深まる活動となった。



## 高齢者支援に取り組む地域組織との連携

高齢者支援に取り組んでいるUR都市機構、足立区が設置したシニア相談所と連携してイベントを実施。



都立公園についての説明



紅葉の魅力について説明



さくらの花芽調査に協力

## 公園×バスケット×ゴミ拾い

バスケットを通じ、管理する側と利用する側の新たなコミュニティを育むことを目標としている「PICK UP PLAYGROUND」、公園利用者がイベントオーガナイザーとして公園管理者と協力してイベントを実施、バスケットを楽しむと共にゴミ拾いを行った。



参加者によるゴミ拾い



即席チームによるピックアップゲーム



当日の参加者

# 大島小松川公園

～自然を肌で感じるアクティブパーク～

## 大島小松川公園の特徴

- ・多彩なレクリエーションの場  
広大な自由の広場、東部7公園で唯一のバーベキュー場、巨大アスレチックなど様々なレクリエーションを楽しめる。
- ・自治体・ボランティアとの連携  
江戸川区と江東区に面しており、各自治体と密接な関係を構築している。花壇ボランティアや犬の糞清掃ボランティアなど様々なボランティア団体が活動拠点にしている。

## 大島小松川公園の課題

- ・六価クロムの滲出  
一部の公園区域に六価クロムが埋蔵されており、日々の滲出状況のチェックや析出した六価クロムの還元など、適性かつ安全な管理を行う必要がある。
- ・課題解決に向けた取り組み  
近隣路上駐車、ゴミの不法投棄、小動物や野鳥への餌やり、スケートボードによる騒音など、公園における諸課題の解決に向け、地域と協働して取り組む必要がある。

## 大島小松川公園の目標

- 『大島小松川公園マネジメントプラン』に基づく
- ・スポーツによる健康づくり  
2020年東京オリンピック・パラリンピックの開催を踏まえて、スポーツ活動の機運を盛り上げ、都民の健康づくりを進める。
  - ・防災機能の強化  
災害時は避難場所としての利用が予想されており、災害発生を想定した取り組みや、防災関連設備の充実化を図る。

### 令和4年度の大島小松川公園管理運営方針

- ① 六価クロム対策の徹底
- ② 課題解決に向けた新たな取り組み
- ③ 適切な公園の管理運営

#### 取り組み その一

### 六価クロム対策の徹底

安心・清潔な公園づくりの一環として六価クロム滲出現場の点検、洗浄、還元処理、滲出対策工事を実施した。

#### 3人態勢で毎日4回の点検

巡回員2名と責任者1名で毎日午前2回、午後2回点検→①白色化の場合→水洗い ②黄色化の場合→検査(反応ありを確認)→還元剤散布→検査(反応なしを確認)→水洗い ③汚染水滲出の場合→概ね②に同じ

検査(反応あり)



#### 汚染水滲出対策工事

風の広場北西部階段下部において、大雨や長雨によって雨水が地下に充満すると汚染水の滲出が起きていた。これを防ぐため東京都と協議しながら滲出対策工事を実施した。

【工事の効果】この工事により、その後の汚染水滲出はほとんど見られなくなったので、適切に地下に抑え込み、地下有孔管を通して処理施設に導かれているものと判断している。現に令和4年度には白色化・黄色化は確認されていない。

#### 高圧洗浄

汚染水は地下の有孔管に流れ込んで還元処理施設に導かれる仕組みになっている。処理施設への汚染水の流れ込みが少ないときは有孔管や処理施設自体のINの管が閉塞している可能性があるため、状況を見て有孔管やINの管を高圧洗浄する。

有孔管の高圧洗浄



## 公園の課題解決に向けた新たな取り組み

取り組み  
その二

近隣町会・自治会の方々から公園に係る諸課題についてご意見・ご協力をいただきながら、課題解決に向けた新たな取り組みとして「パークミーティング(意見交換会)」を3回開催しました。

### パークミーティング(意見交換会)の開催

大島小松川公園での指定管理業務が12年目を迎えるにあたり、近隣町会・自治会の方々から公園に係る諸課題についてご意見・ご協力をいただきながら、課題解決に向けた新たな取り組みとして、令和3年度に「パークミーティング(意見交換会)」をキックオフし、令和4年度は3回開催しました。

各回において近隣の町会長・自治会長の参加を得て、近隣路上駐車、ゴミの不法投棄、小動物や野鳥への餌やり、園地等における球技スポーツ、自転車のスピード走行など多岐にわたる課題の情報共有を図るとともに、今年度は、特に「公園内におけるスケートボード利用(スケートボードパークの新設や初心者向け練習場所の確保)と騒音問題等」をクローズアップしました。

そのため、本会議の開催に当たり、東京都議会に提出された本公園におけるスケートボード利用に係る陳情代表者との面談を並行して実施し、相互に意見や提案等を交換することにより、活発かつ多様なご意見を伺うことができました。

引き続き本会議を開催することにより、近隣住民の方々との協働とともに、管理運営・利用促進のステップアップに繋がっていきます。



## 地域と一体となった防災プログラムの実施

取り組み  
その三

公園内の防災設備を案内・説明するとともに、地域と一体となり地域住民の防災意識の向上を図るため、関係機関(消防署・警察署・区役所等)や地域組織と連携した防災プログラムを実施しました。

### 防災フェアの開催

晴天にも恵まれた9月17日(土)に、自由の広場及び防災用仮設トイレ設置場所(旧第2駐車場)にて、江戸川消防署、江戸川区役所、小松川警察署他と連携して都民協働事業である「No5防災プログラム(防災フェア)」を実施しました。公園では防災トイレの展示・紹介、スタンプラリーを実施する形で参加するとともに、東京消防庁音楽隊・カラーガーズ隊のコンサートが行われ、親子連れを中心とした多くの来園者(3,500人:江戸川消防署調べ)にご来園いただき、地域住民の方々への防災意識の向上が図られました。



### 地域イベントとの協働

12月3日(日)に、自由の広場にて、小松川千本桜を愛する会の育樹大会に合わせて防災施設(防災トイレ)ヲ案内、説明し、近隣住民を中心とした参加者(約300人)の防災意識の向上を図った。参加者からは、組み立て方法や使用時の注意事項をまとめたリーフレットの作成を求められたので、次年度に向けて準備していきます。



### 消防署の感謝状



# 宇喜田公園

～人と街を緑でつなぐ公園～

## 宇喜田公園の特徴

### ・広々としたスポーツ広場

広いスポーツ広場や少年野球場があり、子供たちがのびのびと球技などで遊ぶことができる。

### ・人気上昇ハーブガーデン

平成29年度にリニューアルしたハーブガーデン。花壇の管理をボランティアと協働で実施し、充実が進んでいる。公園のおすすめスポットとして人気である。

## 宇喜田公園の課題

### ・管理所のない公園

東部7公園の中では唯一管理所が無く、利用者の声が届きにくいことや巡回の目が届きにくいといった課題がある。

### ・ペットマナーに関する苦情

隣接する江戸川区立行船公園とともに散策や犬の散歩による利用が多い。管理所が無いこともあり、ペットマナーの悪さが以前から問題となっている。

## 宇喜田公園の目標

『宇喜田公園マネジメントプラン』に基づく

### ・水と緑の骨格軸の拠点となる

#### 公園、街路樹の形成

幹線道路や河川との緑のつながりに配慮した整備を進め、都民がうるおいやすらぎを実感できる緑の拠点を創出する。

### ・防災機能の強化

災害時は避難場所としての利用が予想される。災害発生を想定した取り組みや、防災関連設備の充実化を図る。

## 令和4年度の宇喜田公園管理運営方針

① 世界の花壇「ハーブガーデン」の拡充

② 園内施設の点検重視

③ 江戸川区との連携

取り組み  
その一

## 世界の花壇「ハーブガーデン」の拡充

世界の花壇と位置づけたハーブ花壇を都民協働で実施。住民たちの憩いの場としての効果も増大。



## ハーブの魅力発信と地域への還元

2017年4月より発足したボランティア団体の定期活動を毎週水曜日に継続実施。花壇は年々グレードアップが進み、今や園内で最も注目を集める場所に変貌した。

2022年も6月に見ごろを迎えたラベンダーはボランティア会員が摘み取り、公園利用者に配布した他、近隣の病院、保育園、介護施設へも配布した。前年に続き、コロナ患者と向き合う医療従事者への持参は、当年も地域で話題になった。

2022年は新たな魅力空間の創出に挑み、スパイラル花壇の新設に着手。ボランティア会員達が設計し、自ら道具と材料を手にして、5月から施工に入った。(完成予定は2023年5月)

2022年は咲き誇った花、料理に使える葉を幾度も配布。ハーブの魅力を伝えると同時に、地域への還元に努めた。



ラベンダーの摘み取り



ラベンダーの配布



## 園内施設の点検重視

取り組み  
その二

毎月1回以上の自主点検を行い、安心・安全な施設を維持。いつでも使える施設整備に尽力。



## 都立宇喜田公園防災フェアの実施

2023年3月25日（土）、当園にて、当方主催による「都立宇喜田公園防災フェア」を開催した。防災をテーマに、地域の自治会と手を組み開催した。

地域に当園が一次避難所の役割を持っている事を伝える為、備わっている防災施設を今一度見直して頂く為に企画し、地域に呼び掛け、開催した。

防災施設の自主点検は毎月1回以上を継続。防災施設は常時利用が可能な状態を維持し、この1年も有事の対応に備えた。



災害時井戸の点検



防災フェアの告知

取り組み  
その三

## 江戸川区との連携

サービスセンターが無い状況下で、安心・安全・快適な施設利用を目指し、地域自治体との連携を強化。



## 運動施設の共同管理

運動施設の管理は、利用調整を江戸川区、現場の維持管理を宇喜田公園で担っており、安心・安全を第一に連携強化を図っている。

直近1年については、主に草刈り日程、利用者のマナーアップ、現場の備品管理について話し合った。

共に職員が現場に常駐できないという現状を補い、利用者からの高い満足度を得るべく、連携強化に取り組んだ。



運動施設の利用状況



消火栓の現状確認。区の職員同席。

## 都立宇喜田公園防災フェアへの協力

2022年晩秋、当方が江戸川区に「都立宇喜田公園防災フェア」の企画案を申し上げたところ、協力姿勢を示してくれた。

先方は利用調整にて、フェアの会場となる球技グラウンドを宛がって頂き、起震体験車の貸し出しを許可して頂き、防災食品（クラッカー）の配布提供も許可して頂き、消火栓の使用手続きも行って頂いた。

安心、安全、住みやすい街を築くべく、先方とは互いに歩み寄る1年を送った。



区民消火隊、防災フェア参加表明